

## 轟今古閑遺跡 (とどろきいまこがいせき)

轟今古閑遺跡は、熊本市北区植木町轟字今古閑の三ノ岳を望む台地上に位置しています。農地の改良に伴って平成18年から数次にわたって調査を行った結果、縄文時代から室町時代の遺構、遺物が出土しました。

中でも、弥生時代中頃（約2,000年前）の遺構、遺物の量が飛び抜けて多く、竪穴式住居跡30軒余りのほかに、甕棺墓<sup>かめかん</sup>、木棺墓<sup>もっかん</sup>などのお墓が30基以上検出されました。竪穴式住居跡は一辺4m程度の長方形のものが大半ですが、1軒のみ直径約8mで平面が円形の大きな竪穴式住居跡がありました。また、お墓はそのほとんどが、調査区南東隅に固まって築かれています。甕棺墓は大型の甕を用いたものが2基、その他は小型の甕を使用したものでした。なお、甕棺墓をはじめお墓の中からは、細かな人骨の破片のほかは何も出土しませんでした。

今回の発掘調査場所の東側300mの場所にある轟遺跡では、昭和33（1958）年に行われた発掘調査で、銅矛<sup>どうほこ</sup>4本がまとまって出土していますが、これは熊本県内でまとまって出土した銅矛としては、現在に至るまで最多です。今回調査した轟今古閑遺跡の時期は、この銅矛が使用された時期に重なり、場所もごく近くであることから、同一の集落として考えられ、弥生時代中頃の拠点的な集落の一つであった可能性も考えられます。



1 軒のみ検出された平面形が円形で大型の竪穴式住居跡  
写真奥右手には三ノ岳が見えます。



調査区の南東角に集中するお墓

中央左下に大型の甕棺墓が2基築かれています。